

● 小学校の各教科における主な内容の改善

(1) 国語科

- ア 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導することとし、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。
- イ 言語文化としての古典に親しむ態度を育成する指導については、易しい古文や漢詩・漢文について音読や暗唱を重視する。
- ウ 漢字の指導については、日常生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、上の学年に配当されている漢字や学年別漢字配当表以外の常用漢字についても、必要に応じて振り仮名を用いるなど、児童が読む機会を多くもつようにする。また、日常生活において確実に使えることを重視し、実際の文章や表記の中で繰り返し学習させるなど、児童の習得の実態に応じた指導を充実する。
- エ ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、より早い段階（三年生）から指導する。
- オ 書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。
- カ 敬語の指導については、基本的な知識を理解し、実際の場面において使い慣れるようにすることを重視する。
- キ 言葉のきまりの指導については、基本的な知識を理解し、実際に文章を推敲したり、表現の工夫をまとめたりするときに役立つよう、書くことや読むことなどに関連付けた指導の改善を図る。
- ク 読書の指導については、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利用の仕方などを内容に位置付ける。
- ケ 教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や、物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品を取り上げるようにする。

(2) 社会科

- ア 県（都、道、府）の地形や産業、県内の特色ある地域に関する内容について、「我が国における自分たちの県の地理的位置」や「47 都道府県の名称と位置」が加えられた。（第3学年・第4学年）
- イ 我が国の国土の自然などの様子に関する内容について、「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置」、我が国の位置と「領土」が加えられた。（第5学年）
- ウ 歴史学習の内容に「狩猟・採集」が加えられ、「狩猟・採集や農耕の生活」について調べることになった。
- エ 各学年の目標に「考えたことを表現する力」の育成が規定された。

(3) 算数

ア 算数的活動を充実する。

- ・作業的、体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動が主として挙げられるが、数学に関する課題について考えたり、算数の知識を基に発展的、応用的に考えたりする活動や考えたことなどを表現したり、説明したりする活動も算数的活動である。

イ 筋道を立てて考え、表現する能力を育成する。

- ・「表現する」という文言が新たに加えられた。考える能力と表現する能力とは互いに補完しあう関係にあり、考えを表現する過程で、自分のよい点に気付いたり、誤りに気付いたり、また、自分の考えを表現することで、筋道を立てて考えを進めたり、よりよい考えをつくったりできるようになる。「言語による表現」を重視させるために、考えたことを説明する場を充実させる必要がある。

ウ 進んで生活や学習に活用しようとする態度を育成する。

- ・算数科の授業の中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けること、身に付けた知識及び技能を活用していくことが重視されている。学習したことが、生活やこれから先の算数の学習に活用されることで、算数の学習が意味をもち、算数のよさを実感を伴って味わうことができる。

エ 領域ごとの改善内容

① A数と計算

整数、小数、分数の意味と表し方を理解すること、数についての感覚を豊かにすること、言葉や数による表現力を重視する。また、計算の意味を理解すること、計算の仕方を考えること、計算に習熟し活用することを重視する。

② B量と測定

様々な量の単位と測定について理解すること、量の大きさについての感覚を豊かにすること、面積の求め方などを考えたり説明したりすることを重視する。

③ C図形

図形の意味について理解すること、図形についての感覚を豊かにすること、図形の見方を生活や学習に活用できるようにすることを重視する。

④ D数量関係

数量についての事柄を、言葉や数、式、表、グラフなどによって表現すること、二つの数量の間の変化や対応を調べるなど関数の考え方を育てることを重視する。

(4) 理科

ア 基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、科学の基本的な見方や概念（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）を柱に、小・中学校を通じた内容の一貫性を重視する。

イ 国際的な通用性、内容の系統性の確保等の観点から、必要な指導内容を充実する。（「物と重さ」「人の体のつくり」等）

ウ 科学的な思考力・表現力等の育成の観点から、観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動等を充実させる。

エ 科学を学ぶことの意義や有用性の実感及び科学への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視し改善する。

(5) 生活科

- ア 気付きを基に考えたりすることなど、気付きを質的に高める観点から、活動や体験を充実させる。「見つける」「比べる」「たとえる」などの多様な学習活動
- イ 身近な人々と伝え合う活動を行い、進んで交流できるような内容を新設する。具体的な活動や体験を他者と情報交流することを目指す。
- ウ 自然の不思議さや面白さを実感する指導を充実させる。
- エ 児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育に関する内容を充実させる。
- オ 幼児教育及び他教科との接続を考える。

(6) 音楽

- ア 表現領域（「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」の三分野）、鑑賞領域、「共通事項」で内容を構成。
- イ 「音楽づくり」については、音の面白さに気付くとともに、音を音楽へと構成する音楽の要素や音楽の面白さに触れる。
- ウ 鑑賞領域については、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聞き取る力を育て、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取る。
- エ 唱歌や民謡、郷土に伝わる歌について、さらに取り上げられるようにするとともに、歌唱共通教材の扱いの充実を図る。
- オ 全員で一つの音楽を作っていく体験を通して、協同する喜びを感じる指導を重視。児童の生活の中でよく耳にする音や音楽とのかかわりを大切にされた指導内容にする。

(7) 図画工作科

- ア 創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。
- イ 子供の発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容の関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目など通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。
- ウ 創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度を育み、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。
- エ よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評しあったりするなど、鑑賞の指導を重視する。
- オ 美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。

(8) 家庭

- ア 中学校の内容との体系化を図り、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から ①家庭生活と家族、②食事のとり方や調理の基礎、③快適な衣服と住まい方、④身近な生活と消費・環境に関する内容で構成する。
- イ 社会の変化に対応するために、
 - ・家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にする心情をはぐくむことを目指した学習活動を一層充実させる。

- ・食事の役割や栄養を考えた食事のとり方，調理などの学習活動を一層重視するとともに，身の回りの生活における金銭の使い方や物の選び方，環境に配慮した物の活用などの学習について，他の内容との関連を明確にし，実践的な学習活動を更に充実させる。

ウ 家庭生活を総合的にとらえる視点から，家族の生活と関連させながら衣食住などの内容の取り扱いを重視。また，小学校4学年までの学習を踏まえた2学年間の学習のガイダンス的な内容を設定するとともに，他教科等との関連を明確にした連携を図る。

エ 教科目標の趣旨は現行通りだが，文言を変更されている。

(9) 体育科

ア 学習内容の構造が「①身体能力（身体能力の各要素・技能）②態度③知識・思考・判断」の三つの領域でとらえられ，運動領域の学習を2学年ユニットで示した。

イ 子供の体力低下，運動習慣の二極化傾向の指摘を踏まえて，体育科の授業時間を増やすとともに「体づくり運動」を低学年段階から導入した。

ウ 現行では器械運動・水泳ともに4年生から指導していたものを，器械は3年生から，水泳は5年生から指導することに変更となった。

エ ボール運動では「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の3分類が適用されることになった。

オ 特に体育科では運動の特性を考えて，基礎・基本の習得学習と活用型・探究型の学習とをバランスよく組み合わせていくこととなった。